

# 男女共同参画推進委員会 (JES We Can) 便り

## 2021 年度 JES We Can 支部活動の報告

◎：支部代表、○：報告者、(新)：新委員  
支部代表以下は五十音順

### [北海道支部 第 21 回北海道支部学術集会]

開催日：2021 年 10 月 31 日(日)

会 場：Web 開催

会 長：滝山由美(旭川医科大学 内科学講座病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野)

企 画：・2021 年度 JES We Can 北海道支部賞 受賞講演

受賞者：大場知穂(さっぽろ糖尿病・甲状腺クリニック)

湯野暁子(勤医協中央病院 糖尿病内分泌 腎臓病センター)

・女性医師専門医育成・再教育プロジェクト “JES We Can” 企画セミナー

講演タイトル：内分泌地域診療を支える医師を繋ぐ

登壇者：松尾公美浩(広域紋別病院 小児科)

樋渡 大(医療法人社団あさひ会 とっとり内科クリニック)

小野真佑子(函館中央病院 糖尿病・内分泌内科)

ディスカッサント：中村明枝(北海道大学病院 小児科)

竹田安孝(旭川医科大学病院 内科学講座 病態代謝内科学分野)

座長：宮 愛香(北海道大学病院 糖尿病・内分泌内科)

2018 年より、北海道の内分泌領域における学問と医療の発展に寄与された女性医師を、学術論文をもとに表彰する JES We Can 北海道支部賞を設けており、今年度は選考の上、2 名の先生方が受賞されました。2 名の先生方には、第 21 回日本内分泌学会北海道支部学術集会で受賞講演をしていただきました。大場先生は、クリニックならではの特徴を生かしつつ、日常の外来診療で生ずる疑問から着想を得た臨床研究に意欲的に取り組み、内分泌診療に大いに貢献できる研究の成果を発表されていました。湯野先生は、北海道における内分泌診療の中核病院の一つに勤務しながら、道内外の内分泌指導医の方々とのつながりを築かれ、学会発表や論文発表も積極的に行っている姿が印象的でした。お二人とも、北海道の女性医師にとって指導的役割を担っておられました。

このほかに今回の地方会では、内分泌地域診療を支える医師を繋ぐ座談会企画を開催しました。地域中核病院やクリニックにご勤務されている 3 名の先生方に、広大な北海道における、地域に根ざす内分泌診療の工夫を発表していただきました。対面とオンラインの融合の時代に、病院間や病院内の連携、人とのつながりが診療の充実につながることを痛感させられました。知識と経験を生かし活躍されている姿は、若手医師の良い目標になったのではと思います。本企画をプログラムに組み入れて下さった会長の滝山由美先生に深謝申し上げます。

委員氏名：◎○宮 愛香、竹田安孝、中村明枝

### [東北支部 第 40 回東北支部学術集会]

開催日：2021 年 4 月 10 日(土)

開催方式：Web 開催

会 長：藤原幾磨先生(仙台市立病院 小児科)

企 画：JES We Can 企画講演

演題名：「日常診療から研究へ、社会活動へ」

演 者：鈴木(堀田) 眞理先生(政策研究大学院大学 名誉教授、跡見学園女子大学 心理学部 臨床心理学科 特任教授)

座 長：緑川早苗(宮城学院女子大学 生活科学部 食品栄養学科)

2020年4月に開催予定であった第40回東北支部学術集会は、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、延期となり、2021年4月にWeb形式で開催となりました。今年度は、鈴木(堀田)眞理先生に「日常診療から研究へ、社会活動へ」という演題で、ご講演いただきました。医学部をご卒業になられてから、病理学の道に進まれ、その後、内分泌内科の道に進まれた過程や、留学先での研究について、帰国後の研究生活・臨床診療、社会貢献活動(日本摂食障害協会の立ち上げ、および活動について)等、多岐にわたる内容のご講演となりました。ご講演には、若い先生方、研究者に対するエール・メッセージも散りばめられており、強く勇気づけられたのではないかと思います。

なお、鈴木(堀田)眞理先生は、本御講演後、摂食障害患者が抱える深刻な課題に関しての基礎・臨床研究、内分泌内科初の摂食障害専門外来の開設、社会的支援として家族会の運営等、多岐にわたる長年の活動が認められ、令和3年度 内閣府男女共同参画局の「女性のチャレンジ賞」を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

東北支部初のWeb開催にあたり、会長である藤原幾磨先生には、本企画に関して、多大なるサポートを賜りました。この場を借りて、深謝申し上げます。

委員氏名：◎○桜井華奈子、木下敬子、高橋郁子、羽田幸里香、緑川早苗

### 【関東甲信越支部 第22回関東甲信越支部学術集会】

開催日：2022年9月25日(土) 11:20-12:20

会場：オンライン開催

会長：龍野一郎(千葉県立保健医療大学 学長)

企画名：JES We Can 企画

講演タイトル・演者(発表者)：

1 糖尿病における食生活・行動

演者：池田香織(京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構)

2 発達期環境ストレスと神経内分泌メカニズム

演者：美辺詩織(日本医科大学大学院 医学研究科、名古屋大学大学院 生命農学研究科)

3 原発性アルドステロン症のエピゲノム制御について

演者：小林佐紀子(慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科)

座長：鈴木佐和子(千葉大学医学部附属病院 糖尿病・代謝・内分泌内科)

片井みゆき(政策研究大学院大学 保健管理センター)

まず、今回の企画において特記すべき点は、龍野会長のご推薦を受け千葉大学の鈴木佐和子先生が積極的に企画立案を行って下さった点です。この数年、関東甲信越支部が総会・UpdateのJES We Can企画を担当させて頂く機会が続き、度重なるにつれ委員内でのアイデア捻出もそろそろ枯渇気味でした。より若いメンバーの新たな視点からの提案により、今回の素晴らしいテーマと演者が決定し大変嬉しく存じます。

池田香織先生には、糖尿病患者の糖尿病療養行動における文化的背景を日米間で比較したエビデンス、さらに世代差や性差についてご紹介頂きました。こうした文化的背景を踏まえ、現在取り組まれている糖尿病患者の食事療法支援のためのデジタルデバイス開発について言及頂きました。

美辺詩織先生には発達期環境ストレスと神経内分泌メカニズムとして、胎仔期の化学物質や栄養欠乏による環境ストレスが生殖中枢に及ぼす影響を、哺乳類の生殖中枢である視床下部キスベプチンニューロンに焦点を当て、最新の研究成果と共に概説して頂きました。

小林佐紀子先生には、これまで取り組まれて来たミネラルコルチコイド受容体(MR)関連高血圧のご研究について、新規MR相互作用因子の同定、エピゲノム関連因子の解析、腎特異的LSDIホモノックアウトマウス作成と長期高食塩負荷による血圧上昇の確認、エピゲノム修飾因子であるLSDIの作用等、ご自身のグループの素晴らしい研究成果をご概説頂きました。

今回の企画の成功を通し、今後のJES We Can活動には、是非、若手の先生方にも積極的に参加して頂きたいと改めて実感した次第です。そこで早速、鈴木佐和子先生(千葉大学)と、所属長の

曾根先生からご推薦を頂いていた中川朋子先生(聖マリアンナ医大)に、JES We Can 協力委員となつて頂きました。協力委員に関しては人数規定がなく、自薦他薦共に受け付けております。協力委員として JES We Can 活動に参加ご希望の方は、是非、学会事務局へご一報下さい。

委員氏名：◎◎片井みゆき、荒田尚子、井下尚子、岩部美紀、小澤直子、方波見卓行、北中幸子、鈴木真理、田島敏弘、田辺晶代、中嶋康代、深見真紀、福田いずみ、藤田 恵、堀川玲子、山口実菜 協力委員：(新)鈴木佐和子、(新)中川朋子

## 【北陸支部 第20回北陸支部学術集会】

開催日：2021年11月3日(水)

会 場：金沢大学医学類キャンパス 十全講堂

会 長：藤原 浩(金沢大学医薬保健研究域医学系産婦人科教授)

企 画：日本内分泌学会北陸支部女性医師企画「臨床医のための内分泌症例セミナー」

講演タイトル：単一遺伝子糖尿病の診療—MODY10の一家系を経験して—

最優秀受賞者：鎧高彩夏(金沢大学 内分泌・代謝内科学 後期研修医)

表彰式進行：竹下有美枝(金沢大学 内分泌・代謝内科学)

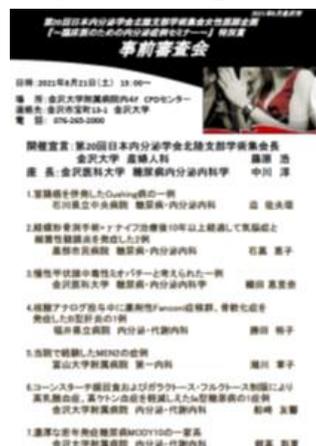
優秀賞授与式：藤原 浩会長から表彰状ならびに賞品(図書券)

受賞講演座長：中川 淳(金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学)、

藤井寿美枝(石川県立中央病院 糖尿病・内分泌内科)

2014年からJES We Can企画として「一般臨床医のための内分泌症例セミナー」を開催しています。これは、臨床に携わる女性医師が、過去1年間に発表した症例報告のうちの1題をもって応募、オープン参加の聴衆を審査員とした事前審査会にて最優秀賞を決定、受賞者には支部学術集会で表彰・副賞を贈呈するとともに、臨床的な啓発を意識した講演を行っていただくものです。本企画は本年度で7回目です。コロナ禍でもあり、事前審査会をハイブリッド形式として2021年8月21日開催いたしました。発表者7症例中3症例はZoomによる遠隔発表となりました。内科のみならず産婦人科・脳外科の先生も審査会に参加され活発な質疑応答がありました。会場のマイクの音が遠隔参加者には届かないトラブルもありましたが、座長に質問を集約したやり取りにて対応しました。コロナ禍の行動制限がある施設からの発表者・参加者も現地開催と同様に匿名化によるオンライン投票が行われました。本年度も、次点とは2倍以上の投票数を得て後期研修医の鎧高彩夏先生が選出されました。女性医師の発表ということもあり、例年、妊娠中やお子さんを託児所に預けて参加される先生方が多い現状があります。受賞された鎧高先生は、小さいお子さんを育てながら、激務の一般病院でICU患者を担当しながら発表をこなしてくれました。この北陸支部女性医師企画が、内分泌医のモチベーションを維持・向上しながらキャリア形成を図り、医師としての社会的役割を果たす一因になることを願っています。

委員氏名：◎◎竹下有美枝、中川 淳、藤井寿美枝、朴木久恵



## 【東海支部 第21回東海支部学術集会】

開催日：2021年9月25日(土)

会場：Web開催(ライブ配信のみ) 配信会場：愛知県産業労働センター(ウィンクあいち)小ホール

会長：近藤國和先生(安城更生病院 内分泌・糖尿病内科)

企画：「JES We Can Tokai 企画セッション」

講演タイトル：生殖内分泌と不妊治療

演者：安藤智子先生(日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 産婦人科)

座長：赤羽貴美子(公立陶生病院 内分泌・代謝内科)

当支部会は、支部学術集会にて JES We Can 企画セッションを設けており、2021年度は、内分泌領域の中でも一般に内科医が不得意になりがちな分野である産婦人科生殖内分泌学にスポットを当てることといたしました。また、医師のキャリア形成期として最も大事な25歳～35歳が妊娠出産の最適年齢に重なり、すべての女性医師にとって非常に重くのしかかる現実に対しても、この生殖内分泌学的視点を持って迫ることができるとも考えて、テーマとしました。そこで東海地区で内分泌学会指導医であり、不妊治療を最前線で手掛けておられる、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 産婦人科 安藤智子先生にご講演をお願いいたしました。

安藤先生から、生殖医療ことに不妊治療について、世界で初めて体外受精児が誕生した時から、出生児の14人に1人が体外受精児となった現在に至るまでの不妊治療の目覚ましい進歩、実際にどのような治療がどのような手順で行われているのかを詳細に、丁寧に解説していただきました。また、卵子の老化の詳細についてもご講演いただき、卵子の質は33歳から40歳にかけて急速に低下し、40歳以降の不妊治療は困難を極めること、さらには高齢出産となりやすい女性医師のキャリア形成と不妊治療との両立は、周囲の理解がなくては成立しないとお話いただき、聴講者からは大きな反響をいただきました。ご講演終了後のアンケートでは89.3%の先生方から講演内容に満足とご回答いただきました。

昨年同様に今回も、会長の近藤國和先生のご高配によりこのJWC企画セッションを指定講演にいただいたことや、Web開催であったこともあり、例年の倍ほどである200人を超える先生方にご視聴いただきました。対面でのディスカッションができず緊張感が欠けるなどのコロナ禍によるマイナス面がある反面、Web開催であったことでより多くの先生に情報が届けられるという利点を実感いたしました。

今後もこのコロナ禍に負けることなく、委員皆で協議しながら、会員に資すよりよい企画を生み出していきたいと思っております。

委員氏名：◎脇 昌子、○赤羽貴美子、井上直子、東村博子、中嶋祥子、村上雅子、山下美保、山本眞由美、山守越子 協力委員：小杉理恵子



## [近畿支部]

### ①第22回近畿支部学術集会

開催日：2021年11月13日(土)

会場：兵庫医科大学 平成記念会館

会長：小山英則教授(兵庫医科大学 糖尿病内分泌・免疫内科学)

企画：JES We Can 企画講演

講演タイトル：「夢をかなえて～小児内分泌と国際貢献～」

演者：堀川玲子先生(国立成育医療研究センター 内分泌・代謝科)

座長：道上敏美(大阪母子医療センター 研究所 骨発育疾患研究部門)

高橋路子(神戸大学医学部附属病院 栄養管理部/糖尿病・内分泌内科)

2021年度の近畿支部学術集会は、小山英則会長のご意向により、新型コロナウイルス感染症に対する感染防止対策を講じた上で、現地開催となりました。JES We Can 企画講演については、日本内分泌学会の理事であり、2023年に第33回臨床内分泌代謝 Update を主催される予定の堀川玲子先生を演者としてお招きしました。Zoom でのご登壇となりましたが、ご自身がライフワークとされている小児内分泌分野でのお仕事と、国際協力について、熱気に満ちたご講演をいただきました。特に国際協力に関しては、President をつとめられたアジア太平洋小児内分泌学会や、Executive Board を担当されている国際小児内分泌学会での活動などを通じて、長年にわたり発展途上国における小児内分泌医の育成や医療の質の向上に貢献されてきたことを拝聴し、男女共同参画のみならず、より広いダイバーシティの推進の必要性について考える貴重な機会となりました。堀川玲子先生をはじめ、学会長の小山英則先生、事務局を担当された角谷学先生に深謝いたします。

学術集会に先立ち支部役員会が開催されました。近畿支部役員会には現在、2名の女性幹事(南佐和子先生、道上敏美)が参画しておりますが、支部と JES We Can との連携強化のため、浅原哲子 JES We Can 支部代表委員が充職として役員会幹事に就任することを稲垣暢也支部長からご提案いただき、承認されました。今後、支部役員会との連携を図りながら、JES We Can の活動をさらに推進していきたいと考えています。

### ②第31回 臨床内分泌代謝 Update

開催日：2021年11月26日(金)・27日(土)会場開催、ライブ配信

2021年11月26日(金)～12月20日(月)オンデマンド配信

会場：ATC HALL(ハイブリッド開催)

会長：大藪恵一教授(大阪大学大学院医学系研究科 小児科学)

企画：JES We Can 企画－講演 1

講演タイトル：「分子栄養学視点から見た骨ミネラル代謝」

演者：増山律子先生(立命館大学 大学院 食マネジメント研究科)

座長：浅原哲子(京都医療センター 臨床研究センター 内分泌代謝高血圧研究部)

JES We Can 企画－講演 2

講演タイトル：「1型糖尿病の疫学と治療～Girls be Ambitious!～」

演者：田嶋尚子先生(大手町プレイス内科)

座長：浅原哲子(京都医療センター 臨床研究センター 内分泌代謝高血圧研究部)

第31回臨床内分泌代謝 Update が大藪恵一会長主催によりハイブリッド開催され、JES We Can 近畿支部が上記セッションの企画を担当しました。基礎分野から増山律子先生、臨床分野から田嶋尚子先生にご講演いただき、約3週間にわたってオンデマンド配信いたしました。オンデマンド配信としたことで、より多くの皆様にご視聴いただけたものと考えております。増山先生には、運動器の機能制御に関わるミネラルの吸収調節機構について、動物モデルや器官培養などを駆使した最新の実験データをご紹介します。また、東京慈恵会医科大学名誉教授でいら

っしやる田嶋先生には、これまで牽引してこられた1型糖尿病の疫学研究に関するご講演に加えて、ご自身がいかにして現在の道を選択され、キャリアを積み重ねて女性医学研究者のフロントランナーとなられたのか、ご経験をお話し下さいました。ご講演を拝聴した後、先生がおっしゃる「Girls be Ambitious!」という言葉が、大きな重みを持って心に残りました。素晴らしいご講演をいただいたお二人の演者に、改めて深謝申し上げます。

委員氏名：◎浅原哲子、位田忍、井上真由美、加藤純子、新谷光世、高橋路子、藤本美香、増山律子(九州支部からの異動)、三浦晶子、○道上敏美

### [中国支部 第22回中国支部学術集会]

開催日：2021年9月4日(土)

会 場：完全 Web 開催

会 長：亀井 望(広島赤十字・原爆病院内分泌・代謝内科 部長)

企 画：JES We Can 企画「女性医師(医療者)の健康の問題とキャリア形成について」

座 長：中村康彦(山口県立総合医療センター 副院長産婦人科)

鞆嶋有紀(島根大学医学部小児科 准教授)

講演①：内分泌診療から研究へ、社会活動へ

演 者：鈴木(堀田)眞理(政策研究大学院大学 名誉教授、跡見学園女子大学心理学部 特任教授)

講演②：月経そしてライフイベントと女性のキャリア形成～当事者として、そして産婦人科医として～

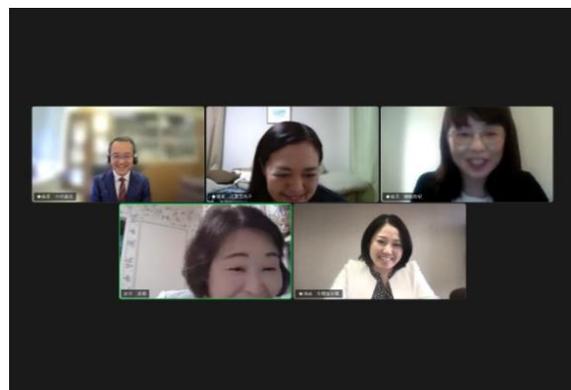
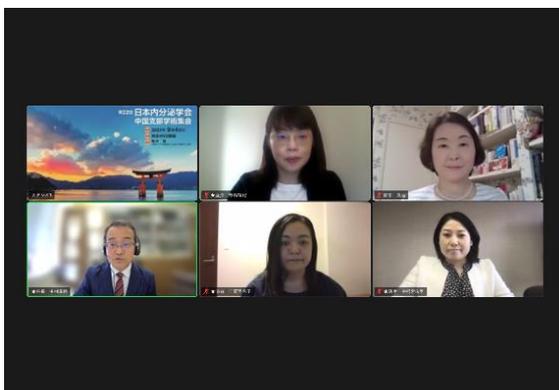
演 者：江夏亜希子(四季レディースクリニック 院長)

講演③：女性医師のライフイベントとキャリア形成のシナジーを目指して

演 者：宇都宮朱里(県立広島病院成育医療センター 小児科部長)

元々現地開催の予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で Web 開催となりました。鈴木(堀田)眞理先生には、これまで歩んでこられた道のりとともに、どのような視点で研究・社会活動に至られたか、貴重な経験と意思についてご講演頂きました。江夏亜希子先生には、ご自身のこれまでの経験や意思とともに、祖母の時代からの女性を取り巻く時代背景、スポーツドクターの経験、ピル、欧米との遅れについてご講演頂きました。宇都宮朱里先生には、どのようにしてキャリア形成を歩んでこられたかご自身の歩みとともに、女性医師の現状、インポスター現象、女性医師へのメッセージをご講演頂きました。各20分の講演では物足りないほどのエッセンスが詰まっており、大変感銘を受けました。この企画に対し、ご尽力いただきました、大会長の亀井望先生、座長の中村康彦先生に感謝申し上げます。これをきっかけに、女性医師のキャリア形成や健康問題について、もっと話す機会が増えてほしいと願っております。

委員氏名：◎三好智子、折出亜希、○鞆嶋有紀



## [四国支部 第21回四国支部学術集会]

開催日：2021年9月4日(土)

会場：Zoomを用いたライブ配信

会長：大山知代先生(高松赤十字病院 内分泌代謝内科部長)

企画：女性医師セミナー

講演タイトル：遺伝医療における内分泌専門医の役割～MENなどの遺伝性腫瘍から代謝性疾患まで～

演者：吉田守美子先生(徳島大学大学院 医歯薬学研究部 血液・内分泌代謝内科学)

座長：井町仁美(香川大学医学部 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)

第21回日本内分泌学会四国支部学術集会は、2021年9月4日にLive配信で特別講演、教育講演、女性医師セミナー、スポンサードセミナー、一般演題が配信された後、9月4日から12日まで教育講演と一般演題がオンデマンド配信される開催方式がとられました。その中で今回の女性医師セミナーは、JES We Canの委員である吉田守美子先生が徳島大学病院 臨床遺伝診療部 副部長を兼任されているということで、遺伝医療に関するお話をいただきました。遺伝性内分泌疾患の最新の知見だけでなく、日常臨床診療においてどのような医療資源が利用できるかなどのアドバイスが盛り込まれた内容で、大変有用でした。たくさんの情報があり、じっくりオンデマンドで聴き直すことができたらと思われた方もたくさんおられるのではないかと思います。

また、吉田先生の講演の前に、我々の委員会活動に興味を持ってくれる同志が増えないかと期待し、当方から内分泌学会 男女共同参画推進委員会活動について簡単に紹介をしました。最後になりましたが、開催にあたり、御尽力いただいた会長の大山知代先生、支部長の松浦文三先生、関係各位に深謝申し上げます。

委員氏名： ◎◎井町仁美、吉田守美子

## [九州支部 第21回九州支部学術集会]

開催日：2021年9月4日(土)～9月20日(月・祝)

会場：Web開催

会長：村上 司先生(医療法人野口記念会 野口病院)

企画 第6回 JES We Can 九州支部賞

①福元多鶴先生(九州大学病院 病態制御内科学)

「Significance of Discordant Results Between Confirmatory Tests in Diagnosis of Primary Aldosteronism」

②永山綾子先生(久留米大学 医学部 内科学講座 内分泌代謝内科部門)

「Metreleptin Supplementation for Improving Lipid and Glycemic Profiles in Acquired Diabetes Lipodystrophy : A Case Report」

③武市幸奈先生(佐賀大学 医学部 内科学講座 肝臓・糖尿病・内分泌内科)

「Non-alcoholic fatty liver disease in mice with hepatocyte-specific deletion of mitochondrial fission factor」

九州支部の活動として優秀論文を選出し地方会で表彰する企画を設け 2021年で6回目となりました。企画当初は応募数も少なく各大学の教室にお声かけすることが多かったのですが、近年は応募数が徐々に増え選考する私達も責任が大きくなってきました。

今年もコロナ禍での開催となり表彰式は行えませんでした。上記3名の先生方が受賞されました。九州支部の事務局の先生方、また会長の村上司先生(野口病院院長)には九州地方会で初の民間病院での会長として多忙を極める中にも関わらずサポート頂き深謝いたします。

委員氏名：◎◎三宅育代、馬越真希、佐藤 薫、柴田洋孝、伊達 紫、花田礼子、松田やよい、  
的場ゆか、山本幸代